健康科学部

＜管理栄養学学科・臨床検査学科＞

教養・基礎科目

科目名	ページ
人間と文化の探求	
心理学	1
平和と友愛論	2
美術の世界	3
国際文化人間論	4
現代社会の探求	
社会学	5
日本国憲法	6
社会福祉論	7
社会とメディア	8
経営学基礎	9
ヒューマンコミュニケーション	10
自然科学の探求	
基礎化学＜管理栄養学科＞	11
有機化学＜管理栄養学科＞	12
化学概論＜臨床検査学科＞	13
生物学概論	14
物理学概論	15
数学概論	16
統計学	17
地域と環境の探求	
健康科学	18
生活と環境	19
災害と生活	20
土佐の歴史	21
土佐の食文化	22
日本語科目	
日本語文章表現	23
日本語口頭表現	24
外国語科目	
英語文章表現	25
英語読解＜管理栄養学科＞	26
日常英会話	27
英語プレゼンテーション＜臨床検査学科＞	28
中国語の基礎	29
情報科目	
情報機器の活用と発信	30
キャリア形成科目	
キャリアデザインⅠ（基礎）	31
スポーツと健康の探求	
運動と健康	32
生涯スポーツ実技	33

授業科目	心理学	授業の方法・単位	講義・２単位
開講学科等	健康科学部管理栄養学科・臨床検査学科　１年　前期		
担当教員	吉村　斉		
授業の目的	広い視野から人命を尊重し、その責任感と倫理観に基づいて、人々の健康的な生活に貢献するため、人間形成や対人関係のあり方、さらには社会現象の理解につなげ、社会適応を促進するための知識と測定方法を理解し活用することができるようになる。		
到達目標	社会の状況を積極的に受け入れ、倫理的な観点から考えて行動するため、心理学に関する理論を自らの体験や日常生活で見られる事例を踏まえながら説明し、自らの将来計画に活かすことができる。		

授業の計画　各回２時間		
	1	社会生活における心理学（テキストp.1～4・p.10）　授業改善に向けた計画 血液型ステレオタイプがもたらす問題　科学の基準　ルーブリックの説明　課題①
	2	知覚①（錯視）（テキストp.4～8） 人間の目は確かか？　心理的法則と人間の行動の関係　課題②
	3	知覚②（反転図形）（テキストp.27～36）　課題②の返却と解説 ないものが見える？あるものが見えない？　複数の視点から捉える必要性　課題③
	4	学習①（条件づけ）（テキストp.37～48）　課題③の返却と解説 人は経験によって造られるのか？　情緒の発達　課題④
	5	学習②（記憶）（テキストp.49～57）　課題④の返却と解説 覚えやすいこと、覚えにくいこと　記憶と忘却のメカニズム　課題⑤
	6	学習③（認知・思考）（テキストp.57～62）　課題⑤の返却と解説 新しい発想を生むためには？　洞察　知能　創造性　課題⑥
	7	人格①（類型論・特性論）（テキストp.117～123）　課題⑥の返却と解説 人格はわかるか？　測定法　意義と限界　課題⑦
	8	人格②（人格検査）（テキストp.124）　課題⑦の返却と解説 自分の性格を判定してみよう　検査の実施と分析－YG性格検査を例に－　課題⑧
	9	健康（欲求不満・防衛機制）（テキストp.63～71・p.124）　課題⑧の返却と解説 ストレスがたまると、どうなる？　交流分析　フラストレーション　課題⑨
	10	発達①（発達理論）（テキストp.103～113）　課題⑨の返却と解説 胎児・乳幼児の特徴　親子関係　課題⑩
	11	社会①（印象形成）（テキストp.129～134、p.139～140）　課題⑩の返却と解説 人を好きになる・好きにさせるためには？　対人魅力　バランス理論　課題⑪
	12	社会②（社会的態度）（テキストp.71・p.135～136・p.138）　課題⑪の返却と解説 人付き合いも楽じゃない?!　認知的不協和　説得・同調　他者の存在と援助行動　課題⑫
	13	社会③（リスク管理）（テキストp.137～138）　課題⑫の返却と解説 学生生活のリスクを管理しよう　悪徳商法、カルト集団、ネット犯罪　課題⑬
	14	社会③（コミュニケーション）（テキストp.136～137）　課題⑬の返却と解説 あなたは情報を正確に伝えられるか？　伝言ゲームに見る情報伝達過程　課題⑭
	15	社会④（流言・パニック）（テキストp.137～138・p.143～145）　課題①⑭の返却と解説 うわさは本当か？　流言　災害とパニック
	16	試験

授業形態	単独。テキストとプリントを使用し、講義形式で行う。テーマに基づいて討論し発表することもある。
テキスト	美濃哲郎・大石史博編「スタディガイド心理学」（ナカニシヤ出版）
参考文献	随時紹介
評価方法・基準	試験60%、授業への取組20%、課題20%。学習した内容について、日常生活における身近な事例や自らの体験例を挙げながら説明することができる。詳細は「心理学・学習成果評価のためのルーブリック」に基づく。試験は正答例を研究室掲示板に掲示してフィードバックを行う。
授業時間外に必要な学習内容と時間	予習：テキストで該当する部分を予め読み、専門用語の意味をノートにまとめる（2時間）。 復習：学んだ理論等について、日常生活での体験や身近な事例をまとめる（2時間）。
オフィスアワー	月曜日午後4時－6時。その他の時間も随時。
履修上の注意事項	

授業科目	平和と友愛論	授業の方法・単位	講義・１単位
開講学科等	健康科学部管理栄養学科・臨床検査学科　１年　前期		
担当教員	浜田　幸作		
授業の目的	職業人としての資質を身に付けるため，国際社会や日本の「平和と友愛」に関する問題及び人権の尊厳について認識し，深く洞察できるようになる。		
到達目標	人権の尊厳や社会問題等に関して，自分の体験や日常生活における具体事例を踏まえて説明することができる。		
授業の計画 各回2時間	1	不安定な国際情勢と国際連合の役割	
	2	保健政策と国際支援。課題提示	
	3	国際人権条約及び少数民族差別。課題提示	
	4	世界の人権問題。課題提示。テスト	
	5	男女共同参画社会の実現に向けて。課題提示	
	6	日本の人権問題。課題提示	
	7	「児童虐待」と「いじめ」問題。課題提示。テスト	
	8	感性と洞察力。レポート課題提示。テスト返却	
授業形態	単独。講義（パワーポイント使用）　，　学生への質問		
テキスト	本学で作成した教材及び「高知県の人権について」平成27年12月　高知県		
参考文献	外交青書(外務省)，世界人権宣言，国際人権規約，外務省ホームページ，子どもの権利条約（日本ユニセフ協会），人種差別撤廃条約，女子差別撤廃条約，男女共同参画社会基本法，第４次男女共同参画基本計画，女性活躍推進法及び基本方針，児童虐待の防止等に関する法律，児童相談所での児童虐待相談対応件数，いじめ防止対策推進法		
評価方法・基準	レポート50%，テスト・提出物・授業への取り組み度50%　授業で取りあげた社会現象や社会問題についての問題意識を深め洞察し，自らの言葉でしっかり説明できる。評価のポイントは，学習成果評価のためのルーブリックに基づく。		
授業時間外に必要な学習内容と時間	新聞やニュース等で最新の日本及び世界の情勢や社会現象を収集すること。予習２時間 毎時間配布する資料の主要事項については，書籍やネット等で調べ，自分とのかかわりについて問題意識を深めること。課題はテストに反映させる。　復習２時間		
オフィスアワー	月～金　午前９時～12時		
履修上の注意事項	授業中に質問時間を設けるので，積極的に質問すること。		

授業科目	美術の世界	授業の方法・単位	講義・１単位
開講学科等	健康科学部管理栄養学科・臨床検査学科　１年　前期		
担当教員	都築　房子		
授業の目的	この授業では、美術を鑑賞する立場から美術全般に対する理解を深め、人が生きる上で美術との関わりの大切さについて考察し、豊かな教養につながる知識と思考を学ぶことが目的である。		
到達目標	１．美術の成り立ちと歴史について知識を深める。 ２．現代の美術を理解する手がかりを見つける。 ３．上記1.2を通して鑑賞者としての深い理解と観る楽しみを教養として身につけることができる。		
授業の計画　各回２時間	1	美術とは何か	
	2	古代美術史・西洋と日本	
	3	ヨーロッパ中世美術とキリスト教の関係	
	4	日本の中世美術と仏教の関係	
	5	ルネサンス美術とその影響	
	6	日本美術の原型（室町時代から江戸時代）	
	7	ヨーロッパ近代と日本の関わり	
	8	現代における美術の問題点を考える	
授業形態	単独。		
テキスト	配布資料。		
参考文献			
評価方法・基準	レポート（80%）、授業への取組（20%）		
授業時間外に必要な学習内容と時間	美術館などで開催される展覧会を見学すること。予習・復習（4時間）		
オフィスアワー	授業終了後		
履修上の注意事項	単独。		

授業科目	国際文化人間論	授業の方法・単位	講義・１単位
開講学科等	健康科学部管理栄養学科・臨床検査学科　１年　前期		
担当教員	近森　憲助		
授業の目的	グローバル化が急速に進行する中で、伝統的な文化やそれに根ざした知の価値をもう一度捉え直そうとする動きがある。その一方で、グローバル化に伴う激しい流動化現象が、異質な文化相互の出会いを促し、それまでとは趣をことにする新たな文化の創発を触発することにもなるであろう。また、このような状況の中で、「異文化交流」あるいは「多文化共生」などが声高に叫ばれるようになってきた。 本講義では、このようなダイナミックな状況を踏まえ、受講生とともに、文化を、人間学、社会学、医学あるいは教育学など様々な分野からの知見を援用しつつ、多角的な視点から眺めてみたい。そのことを通して、文化と人間、さらには、本講義を、臨床検査技師あるいは管理栄養士を目指す受講生にとって、文化は、どのような意味を持ち、それぞれの進路とどのような関わりを持ち得るのか、ということについての彼らの思考を促すきっかけとしたい。		
到達目標	①学際的な知見に根ざした文化に対する見方（文化観）を身につける。 ②卒業後の進路など、自らの生き方と文化とのかかわりについて思考するためのスキルや姿勢を身につける。		
授業の計画 各回2時間	1	文化とは：ブレーンストーミングを通して文化に対する見方を授業担当者、受講生同士が共有する。	
	2	人間学（人類史を含む）から眺めた文化　「人間とは何か？」という視点から文化を眺める。	
	3	社会学あるいは医学から眺めた文化　社会学や医学との関係から文化を眺める。	
	4	教育から眺めた文化Ⅰ：国際教育開発分野の知見を踏まえた文化に関わる教育課題を紹介する。	
	5	教育から眺めた文化Ⅱ：教育と文化とのかかわりについて、事例を踏まえながら思考を深める。	
	6	異文化交流と多文化共生：「他者とは」という視点から、これら二つのテーマについて検討する。	
	7	私と文化：これまでの授業内容を踏まえて、自らの進路や生き方と文化との関連について考える。	
	8	総括討論：授業のまとめとして、これまでの授業における学びを総括し、レポート作成へとつなげる。	
授業形態	受講生との対話を重視し、受講生の人数によっては、ワークショップ形式での実施も考えられる。		
テキスト	テキストは使用しない。授業時間ごとに、担当者が作成した資料を配付する。		
参考文献	青木正規著『人類文明の黎明と暮れ方』（講談社学術文庫） 近森憲助、石村雅雄、小澤大成及び石坂広樹（2017）国際教育人間論（序説）鳴門教育大学国際協力研究、第11号、25頁－34頁		
評価方法・基準	授業内容に関するレポートを課し、内容を４段階（４：非常に優れている、３：優れている、２：受容可能範囲にある、１：書き直して再提出が必要である）で評価する。		
授業時間外に必要な学習内容と時間	①常に新聞、放送メディア、その他インターネットなどの文化に関連する記事やニュースの内容に関心を持ち、文化について日常的に思考するよう心がけること。 ②人類史を含めた人間学、社会学あるいは教育に関する書物や論文等に日常的に触れる機会をもってほしい（予習・復習合計　４時間）		
オフィスアワー	月曜日　17:40-18:40		
履修上の注意事項	受講生との対話を中心とした授業を実施する予定なので、授業担当者や受講生同士の意見交換やディスカッションに積極的に参加するようにしてほしい。		

授業科目	社会学	授業の方法・単位	講義・２単位
開講学科等	健康科学部管理栄養学科・臨床検査学科　１年　前期		
担当教員	遠山　茂樹		
授業の目的	曖昧で掴みどころのない「社会」を把握するための道具となる社会学的な概念を学び、身の回りにある社会事象を社会学的視点から理解できるようになる。		
到達目標	社会学的概念を駆使しながら、身の回りの社会事象を批判的かつ客観的に把握・理解し、説明することができる。		
授業の計画　各回２時間	1	イントロダクション～社会学とは何か～	
	2	行為論	
	3	相互行為論	
	4	集団論	
	5	社会の構造	
	6	全体社会	
	7	国家、エスニシティ、グローバル化	
	8	社会変動	
	9	家族社会学	
	10	ジェンダーの社会学	
	11	福祉の社会学	
	12	都市社会学	
	13	消費社会論	
	14	ネットワークと社会	
	15	総括	
	16	試験	
授業形態	単独。講義　（視聴覚機材を活用して行う）　　学生への質問		
テキスト	特になし		
参考文献	濱嶋朗ほか 編「社会学小辞典　新版増補版」（有斐閣：2005） 森下伸也「社会学がわかる事典」　（日本実業出版社：2000） その他については講義中に適宜指示する。		
評価方法・基準	課題点（30%）、試験（70%）を総合的に判断する。評価の詳細な方法やフィードバックについては授業の初回で説明する。		
授業時間外に必要な学習内容と時間	毎回、講義内容の復習する課題をだす。 身近な社会的な出来事などを、社会学の概念で説明してみること。　　予習・復習合計４時間		
オフィスアワー	授業終了後に質問を受け付ける。		
履修上の注意事項	毎回、前回の講義内容に関する復習ミニテストを課す。		

授業科目	日本国憲法	授業の方法・単位	講義・２単位
開講学科等	健康科学部管理栄養学科・臨床検査学科　１年　前期		
担当教員	渡邉　富一		
授業の目的	学生が、我が国の基本法である日本国憲法に対する理解を深めることの手助けをするのがこの授業の目的である。		
到達目標	学生が日本国憲法に対する興味を持つようになる。		
授業の計画　各回２時間	1	憲法とは何か	
	2	日本憲法史（１）明治憲法の成立	
	3	日本憲法史（２）明治憲法の特色と運用	
	4	日本憲法史（３）日本国憲法の成立①	
	5	日本憲法史（４）日本国憲法の成立②	
	6	日本国憲法の特色（１）国民主権　①国民主権とは	
	7	日本国憲法の特色（１）国民主権　②国民主権と天皇制	
	8	日本国憲法の特色（１）国民主権　③国民主権と間接民主主義	
	9	日本国憲法の特色（２）平和主義　①平和主義の系譜	
	10	日本国憲法の特色（２）平和主義　②憲法９条第１項（戦争の放棄）	
	11	日本国憲法の特色（２）平和主義　③憲法９条第２項（戦力の不保持と交戦権の否認）	
	12	日本国憲法の特色（３）基本的人権の尊重　①人権の意義と人権の体系	
	13	日本国憲法の特色（３）基本的人権の尊重　②人権の享有主体	
	14	日本国憲法の特色（３）基本的人権の尊重　③人権の限界	
	15	日本国憲法の特色（３）基本的人権の尊重　④人権の国際的保障	
	16	試験	
授業形態	単独。講義		
テキスト	『法学・憲法への招待』後藤光男　編著　敬文堂（2014年）		
参考文献	『デイリー六法』（最新版）／三省堂、『ポケット六法』（最新版）／有斐閣、 『セレクト六法』（最新版）／岩波書店、『法学六法』（最新版）／信山社		
評価方法・基準	試験（７０％）、レポート（３０％）レポートは返却し、試験は正答例を掲示する。 評価の詳細な方法については授業の初回で説明する。		
授業時間外に必要な学習内容と時間	文献を事前に読んでくること。予習２時間　授業の内容を復習し理解を深めること。復習２時間		
オフィスアワー	授業終了後に質問を受け付ける。		
履修上の注意事項	授業中の私語は慎んでほしい。		

授業科目	社会福祉論	授業の方法・単位	講義・２単位
開講学科等	健康科学部管理栄養学科・臨床検査学科　１年　後期		
担当教員	岡村　奈緒美		
授業の目的	学生が医療・福祉等の組織の中で、連携・協働して健康で豊かな生活を実現する実践力を備えるため社会福祉の基礎理解とともに、社会福祉サービスの各分野についての知識を得る。		
到達目標	・学生が社会福祉サービスを身近なものと感ずるようになるとともに、社会福祉の基礎理解を深め説明することができる。 ・学生が社会福祉の各分野のサービス内容や仕組みを理解し説明することができる。 ・学生が現代の社会福祉問題について考え説明することができる。		
授業の計画　各回２時間	1	①あなたの中にある「やさしさ」について考えます。 ②社会福祉を身近なものと気づいてください。 ③家族と地域社会の変化と社会福祉問題について学びます。	
	2	①社会福祉とはどんなことかを学びます。 ②社会福祉を日本国憲法との関係で学びます。	
	3	社会福祉の理念について学びます。ノーマライゼーション、インクルージョン、自立支援、バリアフリーについて学びます。	
	4	①少子化の動向と背景について学びます。 ②子供の福祉に関する法律等について学びます。 ③子ども虐待の実態と防止対策について学びます。	
	5	①子供への福祉サービス内容（健全育成、保育、児童自立支援、障害児福祉）について学びます。 ②子供への福祉サービスの実施機関について学びます。	
	6	①母子・父子や寡婦家庭の福祉に関する法律について学びます。 ②母子・父子や寡婦家庭への福祉サービスの内容および実施機関について学びます。	
	7	①障害のある人（身体障害、知的障害、精神障害、発達障害等）の実態について学びます。 ②障害のある人の福祉に関する法律について学びます。	
	8	①障害のある人への福祉サービスの内容について学びます。 ②障害のある人への福祉サービスの実施機関について学びます。	
	9	①人口高齢化の実態とその要因について学びます。 ②高齢者福祉に関する法律およびサービス内容、実施機関について学びます。	
	10	介護保険法および介護保険の仕組み等について学びます。	
	11	誰もが、傷病、障害等で収入が得られなくなり、生活に困窮する状態になる可能性があります。そういった場合に、暮らしを守る生活保護法について学びます。	
	12	生活保護法は私たちの生活を守る最後のよりどころです。とても重要です。生活保護の現状と課題について学びます。	
	13	①老齢や障害等によって、収入が減少あるいは喪失し生活が脅かされる状態になる場合があります。そういった場合に生活を守る年金保険制度について学びます。 ②病気になると医療費等の支出がかさむだけでなく、収入の減少、喪失等になる場合もあります。そういった場合に、生活を守る医療保険制度について学びます。	
	14	①失業等の際に生活を守る雇用保険制度について学びます。 ②仕事中にケガ等をした際に生活を守る労働者災害補償保険制度について学びます。	
	15	自分の権利を守るために主張することが難しい知的障害のある人や認知症高齢者等の権利を守る仕組みについて学びます。	
	16	試験	
授業形態	単独。		
テキスト	西村昇　他編「社会福祉概論―その基礎学習のために―」（中央法規出版）		
参考文献	必要に応じて紹介		
評価方法・基準	試験 80%　社会保険、社会福祉制度の設問に解答できる。社会福祉の各分野の内容等が説明できる。 レポート 20%　自分で考え、意見を述べることが出来る。フィードバックの方法については授業の初回で説明する。		
授業時間外に必要な学習内容と時間	予習（次週のテキスト範囲）・自主学習（テキスト内で範囲を提示および新聞等で社会福祉に関する情報の収集）　３時間　　授業の内容の復習　１時間		
オフィスアワー	授業終了時に、質問・意見等をメモで受け付けます。次週の授業の際に、質問への回答および意見をみんなで共有します。および放課後		
履修上の注意事項	ノートを取ってください。		

授業科目	社会とメディア	授業の方法・単位	講義・２単位
開講学科等	健康科学部管理栄養学科・臨床検査学科　１年　後期		
担当教員	隅田　和稔		
授業の目的	多様化するメディアの構造と特性を学ぶことにより、社会に氾濫する様々な情報を自身の視点で捉えることのできる知見を得ることを目的とする。		
到達目標	(1)メディアの社会的機能の基本的理解 (2)メディア研究に必要な概念および分析視点の習得		
授業の計画　各回２時間	1	オリエンテーション：メディア研究とは何か	
	2	全体通史：現代社会におけるメディアの構造変化	
	3	マスメディアの影響と条件１：媒体特性と表現	
	4	マスメディアの影響と条件２：宣伝と情報操作	
	5	マスメディアの影響と条件３：報道とプロパガンダ	
	6	マスメディアの影響と条件４：経済とメディア	
	7	マスメディアの影響と条件５： 民主政治の世論形成	
	8	マスメディアの影響と条件６： メディアによる政治マーケティング戦略	
	9	マスメディアの影響と条件７： 公共放送(ＮＨＫ)の存在意義	
	10	現代ジャーナリズムの争点１：報道における倫理・公平性	
	11	現代ジャーナリズムの争点２：ジャーナリズムに対する視点・視座	
	12	次世代のメディア：メディアの興亡	
	13	メディア産業の行方：・メディアの変化と企業のメディア活用	
	14	メディア産業の行方：・私たち生活者のメディア活用とリテラシーの必要性	
	15	メディアの構造と特性のまとめ	
	16	試験	
授業形態	単独。演習を交えた講義		
テキスト	平林紀子著、『マーケティング・デモクラシー：世論と向き合う現代米国政治の戦略技術』、春風社、2014 年		
参考文献	竹内・児島・橋元編『メディアコミュニケーション論（改訂版）Ⅰ・Ⅱ』北樹出版、2005 年 田崎・児島編『マスコミュニケーション効果研究の展開（改訂新版）』北樹出版、1996 年 石澤靖治『テキスト現代ジャーナリズム論』ミネルヴァ書房、2008 年 原寿雄『ジャーナリズムの可能性』岩波新書、2009 年、菅谷明子『メディア・リテラシー』2009 年岩波新書、Ｅ・バーネイズ『プロパガンダ』成甲書房、2007 年		
評価方法・基準	試験（100%）評価の詳細な方法やフィードバックの方法については授業の初回に説明します。		
授業時間外に必要な学習内容と時間	新聞やテレビなどマスメディアを通じた情報摂取。授業後の内容を復習しておくこと。 予習・復習 4 時間		
オフィスアワー	授業終了後に質問を受け付ける。		
履修上の注意事項	新聞やテレビなどマスメディアを通じた情報摂取。時事問題に関心があること。		

授業科目	経営学基礎	授業の方法・単位	講義・２単位
開講学科等	健康科学部管理栄養学科・臨床検査学科　１年　後期		
担当教員	生島　　淳		
授業の目的	企業は私たちの生活にあらゆる側面から密接に関わり、大きな影響力を持っています。経営学とは企業の内部における仕組みについて学ぶ学問、具体的には、ヒト・モノ・カネ・情報などの経営資源が結びついて製品やサービスが生産され、そこから消費者に提供・消費される仕組みを学ぶものです。本科目では、企業社会に生きる私たちが知っておきたい経営学に関する基礎的な知識を、様々なケース分析を通して身につけていくことを目的としています。		
到達目標	・経営学全般における基礎的なキーワードを把握し理解できる。 ・経営学を机上の学問としてではなく、経営の現実を実感して、企業への理解を深めていく。 ・現在における個人と企業（組織）と社会の関係に関する問題意識を持つ。		
授業の計画　各回2時間	1	経営学を学ぶ意義。経済学、経営学、商学の違い。カリキュラムの説明	
	2	企業の歴史を知る（経営史）：日本の経営発展について、ユニクロの成長の理由とは	
	3	起業家の役割とは（起業論）：起業家ってどんな人なのか、岩崎弥太郎ってどんな人物	
	4	ビジネス・アイデアとは（起業論）：どうやって企業は立ち上がるのか	
	5	株式会社とは（企業論）：株式会社ってどんな仕組みなのか、渋沢栄一の功績について	
	6	経営組織とは（経営組織論）：企業はどうやって仕事を分担しているか	
	7	経営理念と経営戦略（経営戦略論）：企業はどんな方針で動いているのか	
	8	競争戦略とは（競争戦略論）：企業はどのように他社と競争しているのか、マック vs モス	
	9	ものづくりのあり方（生産管理論）：日本企業の「ものづくり」はなぜ優れているのか	
	10	リーダーシップとは（リーダーシップ論）：リーダーの役割、理想的なリーダー像について	
	11	モチベーションとは（人的資源管理）：ヒトはなぜ働くのか	
	12	商品の提供のあり方（マーケティング論）：売れるための仕組みづくりについて	
	13	グローバル経営とは（国際経営論）：企業はどうやって海外展開するのか	
	14	カネに関する活動（会計論）：財務活動と会計活動、損益計算書と貸借対照表について	
	15	経営学に関する基礎的知識のまとめ	
	16	試験	
授業形態	単独。演習を交えた講義		
テキスト	毎回ハンドアウトを配布		
参考文献	上林憲雄ほか［2018］『経験から学ぶ経営学入門（第２版）』その他授業のなかで紹介します。		
評価方法・基準	課題（２０％）試験（８０％） 評価の詳細な方法やフィードバックの方法については授業の初回に説明します。		
授業時間外に必要な学習内容と時間	予習：日頃のニュースから学んだ内容との関連を考える　（1時間） 復習：授業の振り返りを行い理解を深める　（3時間）		
オフィスアワー	放課後		
履修上の注意事項			

授業科目	ヒューマンコミュニケーション	授業の方法・単位	講義・２単位
開講学科等	健康科学部管理栄養学科・臨床検査学科　１年　後期		
担当教員	二宮　久美		
授業の目的	コミュニケーションは、対人関係を作り維持していくために非常に重要な社会的行為です。一方でコミュニケーションが圧力となって、個人の生きにくさの原因になる場合もあります。この授業では、人と人が向かい合って行う対人コミュニケーションについて、これまで行われてきた研究を紹介します。		
到達目標	対人コミュニケーションの理論を理解し、それを受講者の対人コミュニケーションのスキル向上へと結びつけていきます。		
授業の計画　各回２時間	1	人間にとってコミュニケーションとは何か	
	2	ノンバーバル・コミュニケーション基礎　表情	
	3	ノンバーバル・コミュニケーション基礎　身体動作	
	4	ノンバーバル・コミュニケーション基礎　空間行動	
	5	ノンバーバル・コミュニケーション応用　応用＝感情労働論、アサーション	
	6	言語コミュニケーション基礎　言語行為論・協調原則	
	7	言語コミュニケーション基礎　ポライトネス	
	8	言語コミュニケーション基礎と応用　制度的状況　応用＝エスノメソドロジー	
	9	短期的印象形成基礎　面談・交渉	
	10	短期的印象形成基礎　プレゼンテーション	
	11	コミュニケーションと社会　民族・階級	
	12	コミュニケーションと社会　ジェンダー・世代	
	13	言語コミュニケーションの展開　言語論的転回	
	14	言語コミュニケーションの展開　コミュニケーション的行為	
	15	授業全体の振り返り	
	16	試験	
授業形態	単独。講義		
テキスト	特に使用しません。		
参考文献	橋元良明編著『コミュニケーション学への招待』(1997 年、大修館書店		
評価方法・基準	試験（50%）、レポート（50%）		
授業時間外に必要な学習内容と時間	文献を事前に読んでくること。予習２時間　授業の内容を復習し理解を深めること。復習２時間		
オフィスアワー	授業終了後に質問を受け付ける。		
履修上の注意事項	授業中の私語は慎んでほしい。		

授業科目	基礎化学	授業の方法・単位	講義・２単位
開講学科等	健康科学部管理栄養学科　１年　前期		
担当教員	鈴木　寛之		
授業の目的	管理栄養士の専門科目を学ぶ上で、基礎的な化学の知識をしっかり修得することが必要である。そのため、化学の基礎と無機化学を中心に理解をする。		
到達目標	各元素の特徴・特性、モルの概念、酸と塩基、酸化還元反応について説明することができる。		
授業の計画　各回２時間	1	物質を構成する原子物質の分類	
	2	化学量（原子量、分子量、モルの概念）	
	3	化学反応式	
	4	原子の性質と周期律	
	5	さまざまな化学結合（イオン結合、共有結合、配位結合）	
	6	原子価電子対反発理論	
	7	共有結合と分子	
	8	分子の極性と分子間に働く力	
	9	化学平衡	
	10	酸と塩基の概念	
	11	中和反応	
	12	酸・塩基平衡	
	13	水素イオン積と水素イオン指数（pH）	
	14	酸化と還元の概念	
	15	酸化還元反応	
	16	試験	
授業形態	単独。テキストとプリントを使用し、講義形式で行う。学生に質問することもある。		
テキスト	「基礎固め化学　第２版」小島一光　（化学同人）		
参考文献	「これからはじめる化学」　加藤昌彦　他著（三共出版） 「基礎からのやさしい化学」　薗田勝　編（建帛社）		
評価方法・基準	期末試験 70%、小テスト 20%、授業態度 10%を加味して総合的に評価する。授業中に数回小テストを行う。期末試験は正答例を研究室掲示板に掲示してフィードバックを行う。		
授業時間外に必要な学習内容と時間	予習：テキストで該当する部分を予め読む（2 時間）。 復習：学んだ授業内容等について復習し、理解を深めるとともに、小テストに関してはその都度解説を配布するので、復習すること（2 時間）。		
オフィスアワー	金曜日　午後４時 ～ ６時　その他の時間も随時　鈴木研究室		
履修上の注意事項			

授業科目	有機化学	授業の方法・単位	講義・２単位
開講学科等	健康科学部管理栄養学科　１年　前期		
担当教員	鈴木　寛之		
授業の目的	管理栄養士は食品や生体の有機化学について十分に理解しておく必要がある。化学一般から大学の専門科目への橋渡しをするために、生体構成成分が理解できるよう基礎的な有機化学の理解を深める。		
到達目標	化学物質の構造・反応性、化学物質の立体構造について説明することができる。		
授業の計画　各回2時間	1	有機化学の概念	
	2	有機化合物の分類	
	3	有機化合物の化学結合	
	4	有機化合物の立体化学（幾何異性体）	
	5	有機化合物の立体化学（鏡像異性体）	
	6	有機化合物の構造による特徴（炭化水素）	
	7	有機化合物の構造による特徴（官能基）	
	8	有機化合物の反応（酸化・還元）	
	9	有機化合物の反応（置換反応、付加反応、その他の反応）	
	10	生体構成有機化合物（炭水化物）	
	11	生体構成有機化合物（アミノ酸とタンパク質）	
	12	生体構成有機化合物（脂質）	
	13	生体構成有機化合物（ビタミン）	
	14	核酸の構造	
	15	転写と翻訳	
	16	試験	
授業形態	単独。テキストとプリントを使用し、講義形式で行う。学生に質問することもある。		
テキスト	「栄養化学シリーズNEXT 基礎有機化学」高橋吉考・辻英明　編（講談社サインフィク）		
参考文献	「これからはじめる化学」　加藤昌彦　他著（三共出版） 「基礎からのやさしい化学」　薗田勝　編（建帛社）		
評価方法・基準	期末試験70%、小テスト20%、授業態度10%を加味して総合的に評価する。授業中に数回小テストを行う。期末試験は正答例を研究室掲示板に掲示してフィードバックを行う。		
授業時間外に必要な学習内容と時間	予習：テキストで該当する部分を予め読む（2時間）。 復習：学んだ授業内容等について復習し、理解を深めるとともに、小テストに関してはその都度解説を配布するので、復習すること（2時間）。		
オフィスアワー	金曜日　午後4時 ～ 6時　その他の時間も随時　鈴木研究室		
履修上の注意事項			

授業科目	化学概論	授業の方法・単位	講義・２単位
開講学科等	健康科学部臨床検査学科　１年　前期		
担当教員	鈴木　寛之		
授業の目的	専門的職業人として生体と医療材料を化学的に理解することを目的とする。		
到達目標	大学１年レベルの基礎化学の問題を解くことができる。基礎化学生体内で起こる現象と材料の特徴を化学的に説明できる。		
授業の計画　各回２時間	1	生命への化学からのアプローチ（なぜ化学を学ぶのか）	
	2	原子の構造	
	3	物質の状態	
	4	無機化合物・放射性同位体	
	5	水溶液・束一的性質	
	6	コロイドと海面現象	
	7	化学平衡・反応速度	
	8	酸素の反応速度	
	9	酸塩基反応・酸化還元反応	
	10	炭化水素・アルコール類・エステル類	
	11	芳香族・高分子化合物	
	12	糖質・脂質	
	13	アミノ酸・タンパク質・核酸	
	14	医療材料・くすり	
	15	臨床検査の化学・生活環境	
	16	試験	
授業形態	単独。ノートをとる時間。質問する時間を十分にとる。		
テキスト	津波古　充朝　ら共著「コメディカル領域の化学」（三共出版）		
参考文献	なし		
評価方法・基準	試験（80%）　、レポート（20%） 評価の詳細な方法やフィードバックの方法については授業の初回で説明する。		
授業時間外に必要な学習内容と時間	予習：教科書を読んでわからない言葉があれば調べておく。復習：ノートを読み直す。 予習・復習合計４時間		
オフィスアワー	金曜日　16:00-18:00		
履修上の注意事項	授業中に積極的に質問する。わからないまま先にすすまない。		

授業科目	生物学概論	授業の方法・単位	講義・２単位
開講学科等	健康科学部管理栄養学科・臨床検査学科　１年　前期		
担当教員	村上　雅尚		
授業の目的	医学を含む生命科学の分野は生命現象の理解のために科学技術の急激な進歩により進んできた。医療人となるための基礎的な知識を習得するために、生命科学の現象を理解するのに必要な生物学の知識と考え方を学ぶ。		
到達目標	前半：生体を構成する物質やその構造を理解し、細胞分裂の仕組、遺伝子からタンパク質合成の流れについて学び、さらに、原核・真核生物の遺伝子発現を理解し、説明できる。 後半：組織における情報伝達やその受容と応答について考え、説明できる。		
授業の計画			
各回2時間	1	生命の誕生と分類　（原核から真核、真核から多細胞生物）	
	2	生命の進化　（原核から真核、真核から多細胞生物、共生と進化）	
	3	細胞の構造と増殖　（細胞小器官、動物・植物、分裂）	
	4	細胞の代謝　（生体触媒・酵素：酵素の定義と分類／酵素の特徴、酵素による代謝調節）	
	5	エネルギー生成　（ミトコンドリア、糖の性質：単糖・多糖、光合成）	
	6	遺伝と遺伝子　（核酸の構造、染色体、真核生物の遺伝子：エクソン・イントロンの存在）	
	7	遺伝暗号　（メンデルの法則、無性/有性生殖、細菌の性：遺伝子移動）	
	8	遺伝子・タンパク質発現　（セントラルドグマ、タンパク質の構造、アミノ酸）	
	9	遺伝子発現調節　（ラクトースオペロンを例に）	
	10	細胞の増殖と死　（アポトーシス、細胞周期、細胞のがん化）	
	11	細胞内外の情報伝達　（ホルモン、サイトカイン）	
	12	シグナル受容体　（視覚、嗅覚、味覚、聴覚）	
	13	筋収縮の仕組み　（構造タンパク質、筋肉の種類：平滑筋と骨格筋）	
	14	神経細胞　（細胞の構造、活動電位と静止電位、慣れと学習）	
	15	免疫細胞　（自然免疫と獲得免疫、「自」と「他」、T細胞受容体）	
	16	試験	
授業形態	単独。授業の終わりに内容のまとめと質疑応答を行う。		
テキスト	「大学生物学の教科書」D・サダヴァ他（講談社）（第１巻：細胞生物学、第２巻：分子遺伝学、第３巻：分子生物学）		
参考文献	ベーシック生物学（武村政春著）　ＩＳＢＮ９７８－４－７８５３－５２２８－８ 理工系のための生物学（坂本順司著）ＩＳＢＮ９７８－４－７８５３－５２３１－８		
評価方法・基準	試験（８０％）、レポート（１０％）、授業への取組（１０％）。 生体構成物質の分類と機能を説明することができる。 試験の結果を伝え、フィードバックを行う。		
授業時間外に必要な学習内容と時間	授業で板書された内容を復習し、理解できなかった部分を調べて補い授業ノートを完成させる。 予習・復習合計４時間		
オフィスアワー	木曜日　１６：００～１８：００		
履修上の注意事項			

授業科目	物理学概論	授業の方法・単位	講義・２単位
開講学科等	健康科学部管理栄養学科・臨床検査学科　１年　前期		
担当教員	岩崎　正春		
授業の目的	「身のまわりの現象から物理学を理解する」をテーマに、私たちが日常経験するさまざまな現象が物理学の法則によって説明されることを学ぶ。数式は最小限にして、法則の物理的意味の理解に重点を置く。特に、医療の世界でも物理学が重要な役割を果たしていることを理解する。		
到達目標	力学・熱学・波動・電磁気学などの古典物理学の初歩的な知識を習得し、その概要を説明することができる。		
授業の計画　各回２時間	1	はじめに（物理学とは，物理学の発展と現状）	
	2	力と運動の関係はどうなっているか（力とは、速度と加速度、運動の３法則）	
	3	物体の運動は予知できる（運動方程式，落下運動、見かけの力）	
	4	ロケットはどのようにして飛ぶか（重心、衝突、回転運動）	
	5	エネルギーとは何か（仕事、位置エネルギーと運動エネルギー、エネルギー保存則）	
	6	飛行機はなぜ飛べるのか（静水圧、アルキメデスの原理，ベルヌーイの定理）	
	7	熱とは何だろうか（温度、熱と物質、熱の伝わり方）	
	8	高山ではなぜ気温が低いか（状態方程式、熱力学の法則、不可逆変化）	
	9	波の運動（正弦波、ホイヘンスの原理、反射と屈折の法則）	
	10	音と光はどのような波だろうか（音波、ドップラー効果、光波、光線の進み方）	
	11	電気，磁気とは何だろうか（電場、導体と静電誘導，磁石と磁場）	
	12	電気と磁気のシンフォニー（電流の磁気作用，電磁誘導、マクスウェルの法則と電磁波）	
	13	ミクロの世界（光量子、原子の構造、物質波）	
	14	原子核と放射能（原子核の構造、放射性元素と放射能、放射能の単位）	
	15	まとめ（エネルギーから見た物理学の発展）	
	16	試験	
授業形態	単独。講義		
テキスト	特に指定しない。		
参考文献	『物理学の初歩』岩崎正春（星雲社）		
評価方法・基準	試験（60%）、レポート（20%）、授業への取り組み（20%） 評定・評価の方法や当該授業の履修者に対するフィードバックの方法は授業の初回で説明する。		
授業時間外に必要な学習内容と時間	授業中に指示された参考書、渡されたプリント、レポート等を予習・復習すること。 （予習・復習時間は、それぞれ授業時間と同程度）		
オフィスアワー	各回の講義終了後、質問時間を設ける。また、メールで質問してもよい。		
履修上の注意事項	高校物理の履修は特に必要としない。		

授業科目	数学概論	授業の方法・単位	講義・２単位
開講学科等	健康科学部管理栄養学科・臨床検査学科　１年　前期		
担当教員	寺尾　　康		
授業の目的	線形代数は自然科学および工学の基礎の一つであり，社会科学や医療分野などを含めた幅広いデータサイエンスの基礎としても重要である．行列式やベクトルの概念や計算方法について学び、その基礎を培う。		
到達目標	行列式、逆行列、行列の階数、掃き出し法などの計算ができる。また、行基本変形によって連立１次方程式が解け、逆行列を求めることができ、ベクトルや写像の基本的計算ができる。また、計算方法を説明できる。		
授業の計画　各回２時間	1	連立１次方程式と行列	
	2	行変形による解法	
	3	掃き出し法	
	4	行列の階数	
	5	２次・３次の行列式	
	6	クラメールの公式	
	7	行列の和・差・定数倍、積	
	8	正方行列と逆行列	
	9	平面ベクトル	
	10	空間ベクトル	
	11	線形結合	
	12	線形独立と線形従属	
	13	写像・線形写像	
	14	合成写像・逆写像	
	15	固有値と固有ベクトル	
	16	試験	
授業形態	単独。講義を交えた演習。		
テキスト	石村園子著『大学新入生のための線形代数入門』共立出版		
参考文献	特になし。		
評価方法・基準	授業態度・授業課題（演習時間中にチェックし、間違いが多い点の解説を行うなどしてフィードバックする。）（20%）、小テスト（30%）、試験（50%）		
授業時間外に必要な学習内容と時間	教員が指定する教材・教科書を用いて予習・復習すること。予習・復習を合計４時間程度しておくこと。		
オフィスアワー	火曜日　午後２時30分～4時　寺尾研究室		
履修上の注意事項			

授業科目	統計学	授業の方法・単位	講義・２単位
開講学科等	健康科学部管理栄養学科・臨床検査学科　１年　後期		
担当教員	三船　恒裕		
授業の目的	臨床場面での個々人の変化や、社会における疾病の蔓延度合いなど、個々人や世の中を理解する上で統計学は有用なツールとなりえます。本講義では「分析する」ことを主眼とした統計学を理解することを目的とします。		
到達目標	統計学の知識を用いて、データが何を意味しているのかを理解できるようになるのが目標です。データにも様々な種類があり、それらのデータの意味やデータから推測できることを学ぶことでデータを分析する考え方を身につけます。		
授業の計画　各回2時間	1	統計を学ぶ目的と変数の理解：なぜ統計を学ぶのか、変数とは何かを理解する	
	2	度数分布と代表値：データを表現する方法として度数分布と代表値を学ぶ	
	3	散布度と正規分布：データを表現する方法として散布度を、代表的な分布として正規分布を学ぶ	
	4	相関１：相関とは何か、相関係数とはどのように算出するのかを学ぶ	
	5	相関２：相関とは何を意味し、何を意味しないのかを学ぶ	
	6	記述統計と推測統計：記述統計と推測統計の違いについて学ぶ	
	7	統計的検定の基本的な考え方：有意差検定についての基本的な考え方を学ぶ	
	8	統計的検定の基本用語：検定に関わる基本的な用語が意味することを学ぶ	
	9	カイ二乗検定１：カイ二乗検定とは何かを学ぶ	
	10	カイ二乗検定２：カイ二乗検定の方法と解釈を学ぶ	
	11	t 検定：t 検定の方法と解釈を学ぶ	
	12	分散分析１：分散分析とは何かを学ぶ	
	13	分散分析２：分散分析の方法と解釈を学ぶ	
	14	単回帰分析：説明変数がひとつの場合の回帰分析を学ぶ	
	15	重回帰分析：説明変数が複数ある場合の回帰分析を学ぶ	
	16	習熟度確認：15 回の講義の習熟度を確認するテストを行う	
授業形態	単独。講義。		
テキスト	なし		
参考文献	「本当にわかりやすいすごく大切なことが書いてあるごく初歩の統計の本」 吉田寿夫(著) 北大路書房 「社会心理学のための統計学」清水裕士・荘島宏二郎（著）誠信書房		
評価方法・基準	数回行う授業後の小テストがおおよそ 30%、期末テストがおおよそ 70%		
授業時間外に必要な学習内容と時間	特に統計値の算出方法など、各講義回で学んだ内容を復習すること。		
オフィスアワー	授業終了後		
履修上の注意事項			

授業科目	健康科学	授業の方法・単位	講義・１単位
開講学科等	健康科学部管理栄養学科・臨床検査学科　１年　前期		
担当教員	津野　美保		
授業の目的	社会の多様化と変化に伴い科学的に健康を考察する必要がある。人々の健康の維持・増進を支援するための専門職として、健康に関する問題点と目指すべき方向性について考える力を修得する。		
到達目標	健康とは何かについて知識を深め、統計データ(高知県、全国、世界規模)から健康について考え、課題を説明できる。環境要因と遺伝要因が健康に及ぼす影響を理解し、説明できる。 精神的な健康についても理解し、心身両面から健康であるために取り組むべき課題や支援について考察する。		
授業の計画　各回２時間	1	健康科学の意義と必要性	
	2	統計からみた健康問題、健康増進施策	
	3	ライフスタイルと健康、健康づくりの実際（運動、栄養、休養）	
	4	環境と健康（国際化と健康、地球温暖化と健康）	
	5	環境と健康（紫外線、大気汚染、放射線と健康）	
	6	遺伝子と健康、ライフステージと健康	
	7	メンタルヘルスにおける支援	
	8	健康教育（人間の行動特性とその基本的メカニズム）、 健やかな生活を求めて将来への展望（グループディスカッション）	
	9	試験	
授業形態	単独。グループディスカッションを交える。		
テキスト	「テキスト健康科学（改訂第２版）」監修　竹内康浩他、南江堂		
参考文献	配布資料		
評価方法・基準	レポート（30%）、試験（50%）、授業への取組（20%）		
授業時間外に必要な学習内容と時間	予習（次の授業で該当する単元の教科書を読む。２時間） 復習（授業の要点をまとめる２時間）。		
オフィスアワー	授業終了後		
履修上の注意事項			

授業科目	生活と環境	授業の方法・単位	講義・２単位
開講学科等	健康科学部管理栄養学科・臨床検査学科　１年　前期		
担当教員	木下　　泉		
授業の目的	これからの環境調和型社会を創生するために理解しておかなければならない現状社会での環境問題、あるいはそのような状況に陥ったこれまでの経緯等について学ぶ。生活活動が今日の環境問題とどのように関連しているかを知り、歴史的経緯とともに、現在行われている活動や、環境を改善・維持し、生活を向上させるための方法について学ぶ。		
到達目標	生活活動から生じる環境への影響を把握し、環境を改善・維持する方法を理解している。		
授業の計画　各回２時間	1	イントロダクション：授業の進め方を概説する。	
	2	土佐湾の環境と生態系	
	3	土佐湾の魚類の再生産と黒潮との関係	
	4	土佐湾の魚類の種類と生活史	
	5	土佐湾の生態系の変化と地球環境の変化との関連	
	6	海洋環境の定期的な調査の実施、その方法と課題	
	7	有明海の固有種と人との関係	
	8	土佐湾の漁業と生活（シラスを例にして）	
	9	土佐湾の環境とアユの生活史	
	10	ベトナムのアユと高知のアユを比較、アユの環境への適応	
	11	カツオの生活史から考える漁業と環境の調和	
	12	有明海の魚類の生態と環境変化の関係	
	13	タンガニイカ湖の魚類の環境への適応	
	14	バイカル湖の環境・生態系と魚類について	
	15	土佐湾・有明海・タンガニイカ湖・バイカル湖での環境と魚類の関係をまとめ、住民と環境のあるべき姿を考察	
授業形態	単独、講義		
テキスト	特に設定しない。		
参考文献	適宜配布する。		
評価方法・基準	レポート（８０％）、授業への取組（２０％）。		
授業時間外に必要な学習内容と時間	次回の講義で学ぶ範囲に目を通し、学ぶ内容の概要と疑問点を整理する。　予習 1.5 時間 復習 2.5 時間		
オフィスアワー	授業終了後に質問を受け付ける。また、電子メールで質問を受け付ける。		
履修上の注意事項			

授業科目	災害と生活	授業の方法・単位	講義・２単位
開講学科等	健康科学部管理栄養学科・臨床検査学科　１年　後期		
担当教員	島田　郁子		
授業の目的	被災者のこころと身体の健康に影響を及ぼす要因と対策について、災害発生からの時間経過とともに変化する生活環境や地域コミュニティ等を軸として学ぶ。具体には、避難所や仮設住宅等における生活環境とストレス要因、その対策として必要となる医療活動、健康支援のための社会システムや行政・NPO 等の取り組み、被災者をとりまくコミュニティのあり方等について講義する。		
到達目標	災害により変化する生活環境やそれにより生じる課題を理解するとともに、被災者支援のための様々な方策や取組みを習得する。		
授業の計画　各回2時間	1	講義のねらい：被災者のストレスと回復	
	2	被災者が抱える課題（災害直後）	
	3	被災者が抱える課題（復旧・復興）	
	4	災害看護	
	5	災害時要援護者への支援	
	6	災害医療の意義とその取り組み	
	7	震災遺族の健康と支援	
	8	海外における心のケア人材育成	
	9	被災児童が抱えるこころの問題と学校防災教育	
	10	被災体験を語ることの意義と課題	
	11	NPO による被災者支援	
	12	震災で親を亡くした子どもの支援	
	13	学生ボランティアの取り組み	
	14	福島原発避難者を考える	
	15	講義のまとめ	
授業形態	単独、講義		
テキスト	パワーポイントを中心に関連する資料を適宜配布する。		
参考文献	特になし。		
評価方法・基準	レポート 100%　評価の詳細な方法やフィードバックの方法については授業の初回に説明します。		
授業時間外に必要な学習内容と時間	新聞・テレビ等から情報を収集し、災害に対する理解を深めること。授業の内容を復習し理解を深めること。　予習・復習４時間		
オフィスアワー	授業終了後に質問を受け付ける。また、電子メールで質問を受け付ける。		
履修上の注意事項			

授業科目	土佐の歴史	授業の方法・単位	講義・1単位
開講学科等	健康科学部管理栄養学科・臨床検査学科　1年　前期		
担当教員	宅間　一之		
授業の目的	高知県の歴史や偉人については小学校以来、何度も授業で取り上げられているはずだが、その偉業や歴史的意義について学び、高知県についての更に深い知識を得ることが目的である。		
到達目標	1. 高知県の歴史を知り、多くの人に語ることができるようになる。 2. 高知県の誇る偉人について、その偉業と歴史的意義を理解し、語ることができるようになる。 3. 高知県の魅力について語ることができるようになる。		
授業の計画　各回2時間	1	高知（土佐）は遠流の地？　戦国時代、長宗我部氏はもうすぐ四国統一？	
	2	高知の歴史と偉人①～小学校・中学校で学んだはずの人の偉業と歴史的意義（江戸期）	
	3	高知の歴史と偉人②～小学校・中学校で学んだはずの人の偉業と歴史的意義（幕末と明治期）	
	4	高知の歴史と偉人③～小学校・中学校で学んだはずの人の偉業と歴史的意義（大正・昭和に偉人はいたか？）	
	5	高知県にある博物館：高知県立高知城歴史博物館、高知県立歴史民俗資料館、高知県立坂本龍馬記念館、龍馬の生まれた町記念館、中岡慎太郎館、ジョン万次郎資料館	
	6	各自が調べる対象を決定し、図書館や博物館で調べたことをまとめる。	
	7	高知県の歴史と魅力を語り合う（グループ・ディスカッション）	
	8	グループ代表者が高知県の歴史と魅力をプレゼンテーションする（相互評価含む）	
授業形態	単独。講義に加え、各自が調べた高知県の歴史と偉人についての発表をもとに討論をする。		
テキスト	なし		
参考文献	なし		
評価方法・基準	レポート（100%）評価の詳細な方法やフィードバックの方法については授業の初回に説明します。		
授業時間外に必要な学習内容と時間	各自が図書館や博物館などで資料にあたり、それらをまとめ、発表する作業が求められる（予・復習で4時間）。		
オフィスアワー	授業終了後		
履修上の注意事項	必要に応じて各自で高知県内の博物館を訪れる。		

授業科目	土佐の食文化	授業の方法・単位	演習・1単位
開講学科等	健康科学部管理栄養学科・臨床検査学科　1年　前期		
担当教員	三谷　英子		
授業の目的	それぞれの地域にはそれぞれの食文化がある。高知県（土佐）には独自の食文化の発展の歴史があり、その上に今日があることを学ぶ。 土佐の食文化についての知識を得、高知県に更に愛着を持つようになることが目的である。		
到達目標	1．土佐の食文化についてその歴史を語ることができる。 2．土佐の食文化の特色について人に伝えることができる。 3．土佐の食文化を多くの人と共有することができるようになる。		
授業の計画　各回2時間	1	和食文化の流れ　伝統食とは	
	2	土佐の食文化①「かつおのタタキ」の歴史と現代の受容及び県外客の評判	
	3	土佐の食文化② 園芸作物の興隆　伝統野菜の復活	
	4	土佐の食文化③ 皿鉢料理はなぜ土佐に？	
	5	土佐の食文化④　土佐茶と柑橘類の魅力、地産地消、地産外商	
	6	土佐の食文化⑤　土佐は山菜の宝庫　食べ方と保存方法	
	7	土佐の食文化⑥　土佐のおきゃく文化	
	8	土佐の食文化⑦　行事食　（正月と5節句を中心に）	
	9	土佐の食文化⑧　土佐の地酒とジビエ料理	
	10	土佐の食文化⑨　土佐は郷土寿司大国　（多種多様な寿司）	
	11	土佐の食文化を調査するために－グループ編成とテーマの設定、調査	
	12	土佐の食文化を調査－グループで図書館等を利用して調査し、発表原稿を作成	
	13	土佐の食文化についての発表－各グループでまとめた土佐の食文化の魅力を発表	
	14	発表についての合評　まとめ	
	15	土佐の食文化継承の課題について発表	
授業形態	単独。講義を受けて、グループで調べたことを発表、及び合評をする。		
テキスト	なし		
参考文献	なし		
評価方法・基準	レポート（50%）、グループ発表（50%）		
授業時間外に必要な学習内容と時間	グループでの調査、発表のまとめなどを含め、予・復習4時間		
オフィスアワー	授業終了後		
履修上の注意事項	履修人数によってグループ数が異なるため、全グループが発表できるよう時間設定をする場合がある。		

授業科目	日本語文章表現	授業の方法・単位	講義・1単位
開講学科等	健康科学部管理栄養学科・臨床検査学科　1年　前期		
担当教員	戸田　浩		
授業の目的	国語力の向上においては、我が国の伝統や文化・国民としてのアイデンティティの理解が不可欠であることは言うまでもないが、他方、日本語の操作技能に対する理解と実践力の育成は非常に重要なことである。 本講座では、日本語におけるコミュニケーション力を鍛えるため、基礎的な知識と論理的で明快な文章表現を学習し、併せて演習問題を取り入れながら、効果的な日本語表現力の基礎を身につけることを目標とする。		
到達目標	・日本語における文章表現の基礎的な知識と読解に関する基礎的な力を習得している。 ・積極的に自らの視索や必要事項を他者に伝えようとする意欲が醸成されている。 ・レポート作成に必要な基礎的な知識と技能を習得している。		
授業の計画 各回2時間	1	講義等のガイダンス 「日本語のポイント」	
	2	文章の構成とアウトライン	
	3	実用文に見られる特色とその理解 「実用文の種類」「敬語表現」	
	4	レポート、論文作成の手順　① 「原稿用紙の用法」「引用と要約のルール」	
	5	レポート、論文作成の手順　②	小テストの実施
	6	レポート執筆の実際　① 「レポート、論文に対する既習内容の整理」	ノートの提出（講義後）
	7	レポート執筆の実際　②	
	8	レポート執筆の実際　③ 「レポート作品例の検討と相互批評」 学習内容の総括	
授業形態	単独。講義と演習を並行して実施する。		
テキスト	『新版　日本語表現法－「書く」「話す」「伝える」ための技法』 西尾　宣明 編著　樹村房 『新用字辞典』　山本慎吾　編　三省堂		
参考文献	『伝える！作文の練習問題』　野内 良三　NHK出版 『日本語について』大野 晋　岩波書店 『日本語練習帳』大野 晋　岩波新書 『論文の書き方』清水 幾太郎　岩波新書		
評価方法・基準	レポート60%、小テスト 30%、ノートの提出10%		
授業時間外に必要な学習内容と時間	テキスト及び参考文献を事前に読んでくること。予習2時間 講義中のメモや学習内容を整理したノートを使って理解を深めること。復習2時間		
オフィスアワー	授業終了後および放課後		
履修上の注意事項	講義中のメモをとる習慣の定着やオリジナリティあるノート作成の工夫に努めること。		

授業科目	日本語口頭表現	授業の方法・単位	講義・1単位
開講学科等	健康科学部管理栄養学科・臨床検査学科　1年　前期		
担当教員	戸田　浩		
授業の目的	口頭表現能力の向上を目的とする。インフォーマルな場面からフォーマルな場面まで幅広く取り上げ、場面に合った適切な口頭表現力の育成をめざす。スピーチや口頭発表の場を設け、実践力を高めていく。グループ討論などの実践を通して、自分の考えや情報を相手にわかりやすく伝えるための練習を行う。スキル科目という特性上、この授業は参加型学習としてデザインされている。		
到達目標	ロールプレイを通して様々な場面や役割にふさわしい口頭表現を選び、効果的に伝えられるようになる。スピーチ発表を通して、正しい発音やアクセントを身につけ、聴衆を意識して話せるようになる。討論会を通して、意見をサポートする根拠を提示し、説得力のある話し方ができるようになる。		
授業の計画　各回2時間	1	オリエンテーション、自己紹介　　自分の話し方の改善点を発見し練習	
	2	ロールプレイ（1）　インフォーマルな会話　　フォーマルな話し方	
	3	スピーチの準備（1）　原稿作成、練習	
	4	スピーチの準備（2）練習、リハーサル	
	5	スピーチの発表　　全員のスピーチのふりかえりをし、自己の表現改善へとつなげる。	
	6	ロールプレイ：アドバイスをする　　ロールプレイのふりかえりをし改善してくる。	
	7	ロールプレイ：自由会話　　ロールプレイのふりかえりをし改善してくる。	
	8	まとめ、インタビューテスト　　学びを総合的に振り返る。	
	9	試験	
授業形態	単独、講義、演習形式。		
テキスト	教科書は使用しない。プリントを配布する。		
参考文献	授業時に適宜紹介する。		
評価方法・基準	授業中の活動と発表 40%、試験 60%		
授業時間外に必要な学習内容と時間	事前学習（初回のみ） 「相手の印象に残るような効果的な自己紹介を考えておく」 その後の事前・事後学習については、授業の都度知らせる。　　予習・復習1時間		
オフィスアワー	授業終了後および放課後		
履修上の注意事項	常に真剣に取り組むこと。		

授業科目	英語文章表現	授業の方法・単位	演習・１単位
開講学科等	健康科学部管理栄養学科・臨床検査学科　１年　前期		
担当教員	太田　直也		
授業の目的	日常的な話題，自分の専門に関する事柄を通じて，英語の表現力を身に付ける。また，英語の語彙力を高める。		
到達目標	（1）英語の文法・語彙・音声に関する基礎的な知識を獲得する。 （2）英語を用いて身近な事柄を表現することができる。 （3）自分の専門性を活かすための語彙力を獲得する。 （4）異文化に対する理解を深める。		
授業の計画 各回2時間	1	ガイダンス	
	2	肥満が最も多い国は？	
	3	寝言と睡眠の関係	
	4	虫刺されが危険な理由	
	5	サンゴ礁から学ぶ環境汚染の危険性	
	6	カフェインの適度な摂取量は？	
	7	小テスト及び試験内容の解説	
	8	潔癖すぎると体に悪影響！？	
	9	男女でガンの発症率が違う理由	
	10	高所恐怖症と加齢に関係	
	11	体内時計でスポーツ効率が変わる！？	
	12	小テスト及び試験内容の解説	
	13	健康的にストレスを減らすには？	
	14	ペットロボットでもセラピーになる！？	
	15	まとめ	
	16	試験	
授業形態	演習		
テキスト	Good Health, Better Life（金星堂）		
参考文献	必要に応じて教場で指示する。		
評価方法・基準	授業内発表，レポート，試験等により総合的に判断するが，期末試験（60%），レポート・小テスト（20%），授業内発表（20%）を基準とする。		
授業時間外に必要な学習内容と時間	授業で扱う単元について十分な予習をしてくること。		
オフィスアワー	金曜日　16:30-17:30		
履修上の注意事項			

授業科目	英語読解	授業の方法・単位	演習・1単位
開講学科等	健康科学部管理栄養学科　1年　後期		
担当教員	太田　直也		
授業の目的	英語のリーディング・スキルの向上を主たる目的とする。また，専門性を活かしていけるよう，ボキャブラリー・ビルディングも行う。		
到達目標	（1）英語で記された情報を正確に読み取ることができる。 （2）英語の文法・語彙・音声等に関する知識を深める。 （3）異文化理解を深める。		
授業の計画　各回2時間	1	Repairing Big Ben	
	2	Learning to Walk Again	
	3	A Secret Garden in London	
	4	Unpaid Internship	
	5	The Wedding Gallery	
	6	A Modern Steam Train	
	7	A T-shirt Exhibition	
	8	Generation Z	
	9	Veganuary	
	10	Wind Power in Britain	
	11	Preventing Transgender Bullying	
	12	A Plastic Tenner	
	13	How to Delay Aging	
	14	Schools Deal with Fake News	
	15	Experiences of Sexual Harassment	
	16	試験	
授業形態	演習		
テキスト	British News Update（金星堂）		
参考文献	教場にて指示する。		
評価方法・基準	授業内発表，レポート，試験等により総合的に判断するが，期末試験（60%），レポート・小テスト（20%），授業内発表（20%）を基準とする。		
授業時間外に必要な学習内容と時間	授業で扱う単元について十分な予習をしてくること。		
オフィスアワー	金曜日　16:30-17:30		
履修上の注意事項			

Course Name	日常英会話　Daily English Conversation	授業の方法・単位	English Seminar 1 credit
Department	Health Sciences, Nutrition　健康科学部管理栄養学科　1年　後期 Health Sciences, Medical Technology　健康科学部臨床検査学科　1年　後期		
Instructor	Paula D. Fabian　ポーラ・ディ・フェビアン		
Aim of Class	Students will become more internationalized by acquiring the knowledge & mastering basic English language skills (vocabulary, English expressions & grammar) to express themselves & communicate in English.		
Achieving Goal	The students will study basic English vocabulary & expressions about everyday topics by reading, writing & speaking (role-playing).		
授業の計画 各回2時間	1	Introduction: Speaking　UNIT 1: 1 Hi, I'm Michiko.	
	2	UNIT 2: Can I get your telephone number?	
	3	UNIT 3: What's the time?	
	4	UNIT 4: Hometowns	
	5	UNIT 5: What's your favorite food?	
	6	UNIT 6: How often do you . . . ?	
	7	UNIT 7: Music in your Life	
	8	UNIT 8: Who's older, you or your sister?	
	9	UNIT 9: How was your weekend?	
	10	UNIT 10: Movies and Dating	
	11	UNIT 11: Weather, Seasons, and Health	
	12	UNIT 12: Cellphones, Computers, and Other Useful Things	
	13	UNIT 13: Have you ever . . . ?	
	14	UNIT 14: Let's Review, 課題　語彙のまとめ	
	15	UNIT 15: Test Yourself, 課題の返却とコメント　ORAL Examination	
	16	Final Written Examination	
授業形態	Seminar in English given by American instructor		
Textbook	Getting Into English by Joseph Cronin & Eric Bray (南雲堂) Standard English-Japanese dictionary		
Additional Materials	Additional handouts & class materials will be distributed as needed.		
Evaluation	Class Participation: reading & speaking in pairs(20%), Homework(20%), ORAL & Written Quizzes(20%) & Final Examination(40%). Students are expected to master basic English for communication: meaning of words/phrases, correct English usage, spelling & pronunciation.		
Study Time	Students are expected to spend at least one hour preparing for the next lesson & reviewing the previous lesson. Students will keep a notebook writing down vocabulary words & phrases, grammar, & the correct use of English expressions.		
Office Hours	After Class		
Special Note	Students are expected to keep an English folder/notebook for the class & bring a standard English-Japanese dictionary to every class.		

授業科目	英語プレゼンテーション	授業の方法・単位	演習・1単位
開講学科等	健康科学部臨床検査学科　1年　後期		
担当教員	太田　直也		
授業の目的	英語によるプレゼンテーションを行うために必要な知識（内容構成等）や事項を知ることを主たる目的とする。		
到達目標	（1）英語の文法・語彙・音声に関する基礎的な知識を獲得する。 （2）英語を用いて身近な事柄を口頭で表現することができる。 （3）自分の専門性を活かすための語彙力を獲得する。 （4）異文化に対する理解を深める。		
授業の計画　各回2時間	1	ガイダンス	
	2	Thinking Critically, Working Together	
	3	Learning How You Learn	
	4	Finding a Research Topic	
	5	Finding the Best Key Words	
	6	Evaluating Your Materials	
	7	Extracting the Necessary Information	
	8	Describing Your Data	
	9	Structuring Your Presentation	
	10	Arranging and Effectively Presenting Your Messages	
	11	Preparing Your Presentation Draft	
	12	Giving Your Report Presentation	
	13	Preparing Your Final Presentation	
	14	Giving Your Proposal Presentation	
	15	Final Presentation	
	16	試験	
授業形態	演習		
テキスト	Active Presentation（金星堂）		
参考文献	必要に応じて教場にて指示する。		
評価方法・基準	授業内発表，レポート，試験等により総合的に判断するが，期末試験（60%），レポート・小テスト（20%），授業内発表（20%）を基準とする。		
授業時間外に必要な学習内容と時間	授業で扱う単元について十分な予習をしてくること。また，発表の準備を十分にしてくること。		
オフィスアワー	金曜日　16:30-17:30		
履修上の注意事項			

授業科目	中国語の基礎	授業の方法・単位	演習・１単位
開講学科等	健康科学部臨床検査学科・臨床検査学科　１年　後期		
担当教員	前田　正也		
授業の目的	中国語４技能（『読む』『聞く』『書く』『話す』）の基礎を学ぶ		
到達目標	日常動作を表現する中国語を理解し、簡単な発話能力を獲得する		
授業の計画　各回２時間	1	実際に使える中国語（外国語）を短時間でマスターする攻略法を体験する	
	2	中国語初級文法（１）名詞、動詞、形容詞、疑問文	
	3	中国語初級文法（２）疑問詞疑問文、副詞、介詞（前置詞）、補語句	
	4	テキストの本文和訳（１）１課～６課、発音（数字）	
	5	テキストの本文和訳（１）７課～12課、発音（曜日、月日）	
	6	復習（１）文法・本文和訳、発音（絵教材）	
	7	復習（２）文法・本文和訳、発音（絵教材）	
	8	テキストの本文１課～２課音読（発音記号）、文法、発音（絵教材）	
	9	テキストの本文１課～３課音読（発音記号）、文法、発音（絵教材）	
	10	テキストの本文１課～４課音読（発音記号）、文法、発音（絵教材）	
	11	テキストの本文１課～５課音読（発音記号）、文法、発音（絵教材）	
	12	テキストの本文１課～６課音読（発音記号）、文法、発音（絵教材）	
	13	復習（３）文法・本文和訳、本文１課～６課音読（発音記号）、文法、発音（絵教材）	
	14	筆記テスト（60%）	
	15	復習（４）本文１課～６課音読（発音記号）、発音（絵教材）	
	16	口頭テスト（40%）	
授業形態	ロールプレイを中心としたグループワークショップ		
テキスト	最新２訂版　中国語はじめの一歩　白水社		
参考文献	無し		
評価方法・基準	筆記試験（60%）・口頭試験（40%）		
授業時間外に必要な学習内容と時間	授業中に学んだ必要事項を次の授業までに暗記する。復習時間は週１時間程度。		
オフィスアワー	授業終了後		
履修上の注意事項	グループワークショップを通じて必要事項は授業中に暗記する習慣を身につける		

授業科目	情報機器の活用と発信	授業の方法・単位	演習・1単位
開講学科等	健康科学部管理栄養学科・臨床検査学科　1年　前期		
担当教員	來栖　正博		
授業の目的	健康の保持・増進に貢献する実践的な能力を備えるためのリテラシーかつ、社会人として基礎的な情報処理能力を養う。課題演習を通して、主体的に学ぶ姿勢を身に付ける。管理栄養士・臨床検査技師に必要な基礎的な情報スキルを身に付ける。		
到達目標	パワーポイントの学習を通して、効果的なプレゼンテーションの考え方を身に付けるとともに、課題に従った発表資料を作成することができる。エクセルの学習を通して、表計算ソフトの考え方を理解し、課題に従った効率よい作業ができる。		
授業の計画　各回2時間	1	ガイダンス、利用者登録、実習環境の説明、Windows の基本操作とファイル管理、入力速度測定	
	2	エクセル基礎Ⅰ　ファイルを PDF 形式で保存、ページの拡大表示・縮小表示などの学習	
	3	エクセル基礎Ⅱ　Edge の使い方、画面のキャプチャ・パワーポイントへの取り込みなどの学習	
	4	エクセル基礎Ⅲ　数式（「＝」から入力）の連続コピー　相対指定と絶対指定などの学習	
	5	ワード基礎Ⅰ　メニューバーとツールバー　タブ・リボン、リボンの最小化と展開などの学習	
	6	ワード基礎Ⅱ　ビジネス文書の作成	
	7	ワード基礎Ⅲ　入力モードの切り替え　単語の登録などの学習	
	8	パワーポイント基礎Ⅰ　図形・画像の挿入、表の作成、表ツールなどの学習	
	9	パワーポイント基礎Ⅱ　ヘッダ・フッタ、スライド番号の挿入などについての学習	
	10	パワーポイント基礎Ⅲ　アニメーションの機能などを用いたプレゼンの作成	
	11	画像処理Ⅰ　デジタルカメラまたはスキャナー	
	12	画像処理Ⅱ　スキャナーまたはデジタルカメラ	
	13	画像処理Ⅲ　Paint.NET の基礎（レイヤーなど）	
	14	情報倫理　情報発信の責任、コンピュータウィルス、著作権、プライバシーの保護などの学習	
	15	まとめ　学習項目の振り返りと整理	
	16	試験	
授業形態	クラス分け。単独。コンピュータ演習		
テキスト	必要に応じてプリント等を配布する。		
参考文献	適宜紹介する。		
評価方法・基準	授業項目に対する関心・意欲・態度、授業内課題（30%）、レポート（30%）、試験（40%） 管理栄養士・臨床検査技師に必要な基礎的な情報スキルを学び活用することができる。 試験を返却してフィードバックを行う。		
授業時間外に必要な学習内容と時間	教員が指定する教材を用いて予習・復習をすること（予習・復習合計1時間）		
オフィスアワー	火曜日　午後2時30分～4時　寺尾研究室・濱田研究室		
履修上の注意事項			

授業科目	キャリアデザインⅠ（基礎）	授業の方法・単位	演習・１単位
開講学科等	健康科学部管理栄養学科・臨床検査学科　１年　前期		
担当教員	二宮　久美		
授業の目的	自身の将来の生き方等を選択することができる能力を養う。		
到達目標	①キャリア形成基礎力「感じ、広げる力」「前に踏み出す力」「考え抜く力」「チームで働く力」を身に付ける。 ②学科での学びを更に深めるために、関連する職業に就いての実社会での活動を知り、大学での学びが社会において持つ意味に気づくことができる。		
授業の計画　各回2時間	1	学びの目的と目標の明確化(なぜ何を大学で学ぶのか)	
	2	学びの目的と目標の明確化(なぜ何を大学で学ぶのか)	
	3	将来像に向けた目標設定(キャリアノート活用)	
	4	学生生活における行動計画(キャリアノート活用)	
	5	キャリアモデル(将来就くと予想される職業で働いている人)を探す	
	6	食の専門性を活かした多様な生き方と働き方の研究(感じ、広げる力を身に付ける)	
	7	実習現場や職場におけるコミュニケーション(前に踏み出す力を身に付ける)	
	8	社会変化と職業(考え抜く力を身に付ける)	
	9	能力開発の仕組みを知る(チームで働く力について考える)　課題	
	10	社会の状況について学ぶ　新聞記事の読み方と情報収集	
	11	世界や地域を知る　課題のフィードバック	
	12	記事を使って課題を見つける	
	13	ニュースについてのグループ討議	
	14	記事を使ったグループ演習と解説	
	15	現代社会の課題の考察(自己採点と振り返り)	
	16	試験	
授業形態	単独。小テスト、課題、グループワーク		
テキスト	ニュース検定公式テキスト&問題集「時事力」基礎編 キャリアノート①～③、ハンドアウトを配布		
参考文献	授業の中で随時紹介する		
評価方法・基準	授業への取組(３０%)、課題(３０%)、レポート(４０%) 評価の詳細な方法やフィードバックの方法については授業の初回で説明する。		
授業時間外に必要な学習内容と時間	予習(事前に練習問題を解く)復習(授業内容の振り返り)予習・復習合計１時間		
オフィスアワー	放課後		
履修上の注意事項			

授業科目	運動と健康	授業の方法・単位	講義・1単位
開講学科等	健康科学部管理栄養学科・臨床検査学科　1年　前期		
担当教員	山本　英作		
授業の目的	特に運動と健康のかかわりについて理解を深めることが目的である。生涯スポーツ社会を生きていくうえで、基本的な運動を実践することによって健康増進を図るための知識・技能・態度を身につけることができるようになる。		
到達目標	・授業で取り上げた問題に関する基礎知識を身につけ、それらを具体的に説明することができる。 ・3種類の運動（ストレッチング運動、有酸素運動、レジスタンス運動）を正しく実践できる。 ・自分の生活スタイルと健康状態を顧み、「運動」による健康増進計画を立案し、試行した結果をレポートにまとめて報告することができる。		
授業の計画　各回2時間	1	ガイダンス：「運動と健康」で何を学ぶのか？　ルーブリックの説明	
	2	運動と健康の概念： 「運動」、「体力」、「健康」とは？	
	3	疲労・ストレス・休養と運動： 運動による疲労回復とストレス解消、「ストレッチング運動」の紹介	
	4	運動と食事： スポーツ栄養学の基礎知識、「有酸素運動（ウォーキング）」の紹介	
	5	体脂肪を減らす： 運動による健康的なダイエット、「レジスタンス運動」の紹介	
	6	体力トレーニング、健康法の紹介： 映像と解説（動的ストレッチ、腰痛体操、ドローイン、スロトレ、体幹エクササイズなど）	
	7	「生涯スポーツ」の実践へ： スポーツ基本法、さまざまな運動施設、総合型地域スポーツクラブの現状など　課題：レポート	
	8	課題レポートの提出、基礎知識の確認（1時間の授業が終了した後に筆記試験を行う）	
	9	試験	
授業形態	単独。視聴覚教材を活用して講義を進め、討議を交えた授業を行う。		
テキスト	必要に応じて資料を配布する。		
参考文献	九州大学健康科学センター「新版　健康と運動の科学」（大修館書店） 島岡清「イラストでみる健康づくり運動指導」（市村出版） NPO法人ジュース「女性のためのスポーツ指導」（紀伊国屋書店）　等		
評価方法・基準	筆記試験（50%）、レポート（25%）、授業への積極的な取組（25%） ルーブリックで基準を示し、評価のポイントを明らかにしてフィードバックを行う。		
授業時間外に必要な学習内容と時間	予習：各回テーマに関する自己の現状を把握する。　（2時間） 復習：各回の学びをもとに自分に合った健康増進の方策を考える。（2時間）		
オフィスアワー	火・金曜日16時～18時　山本（英）研究室		
履修上の注意事項	初回ガイダンスで説明する。		

授業科目	生涯スポーツ実技	授業の方法・単位	実技・1単位
開講学科等	健康科学部管理栄養学科・臨床検査学科　1年　前期		
担当教員	山本　英作		
授業の目的	初心者でも手軽に競技できるフライングディスク、ソフトバレーボール、フットサル等の実技を通して「生涯スポーツ」の理念を理解し、他社と協働して取り組む姿勢や生涯にわたってスポーツに親しみ楽しんでいく積極的態度を身につけることができるようになる。		
到達目標	・用具の準備、フォームアップ、練習、試合、クールダウン、用具の片付け、自己評価という一連の授業内容を、自主的に、安全に、互いに協力して行うことができる。 ・自己評価ペーパーをもとに自分自身の学習成果と課題について考察することができる。		
授業の計画　各回2時間	1	ガイダンス：「生涯スポーツ実技」で何を学ぶのか？　ルーブリックの説明	
	2	フライングディスクの基本技術	
	3	フライングディスクの個人種目　「ディスクゴルフ」	
	4	フライングディスクのグループ種目　「アルティメット」　課題：自己評価ペーパー	
	5	ソフトバレーボールの基本技術	
	6	ソフトバレーボールの対抗リーグ戦①　「ルールを理解しよう！」	
	7	ソフトバレーボールの対抗リーグ戦②　「得意な技術、苦手な技術は？」	
	8	ソフトバレーボールの対抗リーグ戦③　「連係プレーによる攻防」	
	9	ソフトバレーボールの対抗リーグ戦④　「リーグ戦を楽しもう！」　課題：自己評価ペーパー	
	10	フットサルの基本技術	
	11	フットサルの対抗リーグ戦①　「ルールを理解しよう！」	
	12	フットサルの対抗リーグ戦②　「得意な技術、苦手な技術は？」	
	13	フットサルの対抗リーグ戦③　「連係プレーによる攻防」	
	14	フットサルの対抗リーグ戦④　「リーグ戦を楽しもう！」　課題：自己評価ペーパー	
	15	自己評価ペーパーに基づく学びの振り返り　課題のフィードバック	
授業形態	単独。		
テキスト	必要に応じて資料を配布する。		
参考文献	高橋和敏（「フライングディスク入門　アルティメットのすすめ」タッチダウン） 日本バレーボール協会「最新ソフトバレー・ハンドブック」（大修館書店） 日本サッカー協会「サッカー&フットサル競技規則」（ベースボール・マガジン社）等		
評価方法・基準	授業への積極的な取組（50%）、自己評価ペーパー等の提出物（50%）により評価する。 ルーブリックで基準を示し、評価のポイントを明らかにしてフィードバックを行う。		
授業時間外に必要な学習内容と時間	予習：実践するスポーツ種目のルール、基本技術、戦術について調べる。　(0.5時間) 復習：各回の実技内容について、自己課題の改善方策を考察する。　(0.5時間)		
オフィスアワー	火・金曜日16時～18時　山本（英）研究室		
履修上の注意事項	受講定員30名程度（栄養教諭二種免許状を取得する学生の受講を優先し、初回に抽選を行う。） 初回ガイダンスで説明する。雨天の場合は室内で卓球を実施する。		